

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 27 日付

京畿道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 107-115 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1220925&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道（キョンギド）漣川郡（ヨンチョンゴン）百鶴面（ペッカシムン）、旺澄面（ワンジンシムン）で発見された 7 個体の死体と、坡州市（パジュシ）津東面（チンドンシムン）で発見された死体 1 個体および捕獲された 1 個体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 26 日明らかにした。

漣川郡（ヨンチョンゴン）百鶴面（ペッカシムン）と旺澄面（ワンジンシムン）で発見された死体 7 個体は、2 次フェンス内外で農業経営者等によって発見された。

坡州市（パジュシ）津東面（チンドンシムン）で発見された死体は 1 次フェンスを設置中だった国立生物資源館担当者によって発見され、1 個体は環境部野生いのしし除去班によって捕獲された。この個体が発見された地点は全て 2 次フェンス内であった。

漣川郡（ヨンチョンゴン）および坡州市（パジュシ）は ASF 標準行動指針(SOP)により試料採取後防疫措置とともに死体と捕獲個体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 26 日、死体および捕獲個体から ASF ウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで 1 月 26 日までに、漣川郡（ヨンチョンゴン）では 37 件、坡州市（パジュシ）では 42 件の野生いのししの ASF 陽性事例となり、全国的には 115 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回陽性となった個体は 2 次フェンス拡張工事中である漣川郡（ヨンチョンゴン）、旺澄面（ワンジンシムン）1 個体を除いては全て 2 次フェンスの中で発見された”として、“拡張中であるフェンスを早く完工して周辺地域搜索を徹底する”と話した。

以上